

V0-001

会場：C310

時間：6月7日 9:00-9:15

黒曜岩の水和実験と水和層法による伊豆新島火山の活動年代

Hydration experiment of obsidian and hydration-rind dating of Izu-Niijima volcano

江澤 友則[1], 谷口 宏充[2], 伊藤 順一[3]

Tomonori Ezawa[1], Hiromitsu Taniguchi[2], Jun'ichi Itoh[3]

[1] 東北大・理・地学, [2] 東北大・東北アジア研セ, [3] 地質調査所・環境・火山地質

[1] Earth Sci., Tohoku Univ, [2] CNEAS, Tohoku Univ, [3] Volcano. Sec., Environ. Geol. Dep., GSJ

伊豆新島ではガラス質溶岩中のクラックに沿い、水和層が多数観察される。水和層の形成は溶岩冷却時と冷却後現在までの二つの形成過程に分ける事ができる。水和層法による年代測定では、溶岩冷却中に形成される水和層が年代誤差の主要な原因として挙げられる。そのため、高温低圧の過熱水蒸気流環境下において水和実験を行った。その結果、高温では天然の水和層とは光学的に異なる水和層が形成されるが、そのような水和層は新島では見出されなかった。このことは谷口（1980）における年代測定方法が新島にも適用できることを示唆している。そこで本研究では水和層法を用いて新島火山の活動年代を求めた。